

研究活動報告

2002年度第2回日本人口学会東日本地域部会

2002年度第2回日本人口学会東日本地域部会は、北海道東海大学・札幌校舎（札幌市）において、2003年5月10日（土）に開催された。原俊彦教授が座長を務め、報告された研究論題は以下の3つであった。

1. 市町村将来人口の試算－都道府県推計との整合性の観点から
西岡八郎・小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）
小林信彦（第一生命経済研究所）
2. 県庁所在都市の人口構造と其の変化－メッシュデータを用いた30km圏の分析－
江崎雄治（専修大学）
小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）
武者忠彦（東京大学・大学院）
小口 高（東京大学）
3. 夫婦間の Gender Equity と出生パターン
福田亘孝（国立社会保障・人口問題研究所）

第1論題では、社人研の都道府県別将来推計人口と整合性をもたせた市区町村別の将来人口推計の手法と推計結果について報告された。手法の主たる部分はコーホート要因法によって行われ、推計結果については北海道の2030年までの試算結果が提示された。2030年には北海道全212市町村のうち157市町村で、2000年人口の70%以下に減少する、ことなどが報告された。

第2論題では、県庁所在都市がたどっている少子化の過程について、メッシュデータを利用した分析結果が報告された。特に東京大都市圏では、JR中央本線沿線において他の鉄道沿線よりも少子化の進行度合いが早いことが明らかにされた。

第3論題では、家族におけるジェンダー関係が出生パターンに与える影響について、日本の夫婦を対象にした報告がなされた。出産テンポや学歴間格差に関する分析の結果、ジェンダー関係は出生行動に影響を与える重要な要素であることなどが報告された。（小池司朗記）

日本人口学会第55回大会

日本人口学会（大淵寛会長）の第55回大会は、2003年6月6日（金）～7日（土）の二日間、朝日大学の主催により岐阜市・長良川国際会議場において開催された。本大会は吉田良生朝日大学教授を大会運営委員長とする大会運営委員会のご尽力によって、多数の参加者があり、二日間にわたって活発かつ実質的な討議が行われ、盛会のうちに幕を閉じた。シンポジウム、テーマセッション（1, 1, 3）、及び自由論題の組織者、報告題目、報告者、討論者等は以下のとおりである。

●シンポジウム 「少子社会と家族の変化」

1. 少子社会の結婚
2. 就業・出産と家族
3. 少子化と家族政策

<組織者>吉田良生(朝日大学)
<座長>兼清弘之(明治大学)
安藏伸治(明治大学)
永瀬伸子(お茶の水女子大学)
阿藤 誠(国立社会保障・人口問題研究所)
<討論者>古郡頼子(中央大学)
落合恵美子(京都大学)

●テーマセッション

テーマセッション1 「イスラム社会の人口問題」

- <組織者>小島 宏(国立社会保障・人口問題研究所)
<座長>店田廣文(早稲田大学)
1. イスラム宗教指導者と人口政策：タンバクンダ、コルダ(セネガル)を事例として
大橋慶太(モントリオール大学)
 2. バングラデシュの家族計画
松沢祐子(稲田助産院)
 3. インドネシア西ジャワ農村の出生に関する研究
関山牧子(東京大学)
 4. マレーシアと国際労働移動
大塚友美(日本大学)
 5. 在日ムスリム人口の推計
小島 宏(国立社会保障・人口問題研究所)
- <討論者>早瀬保子(日本貿易振興会アジア経済研究所)

テーマセッション2 「人口減少のデモグラフィー」

- <組織者>河野稠果(麗澤大学)
<座長>嵯峨座晴夫(早稲田大学)
別府志海(麗澤大学)
1. 生命表形式による有配偶出生力の分析
 2. 低出生力分析の方法論的展開
鈴木 透(国立社会保障・人口問題研究所)
 3. 出生低下の人口学的メカニズム：標準化による出生数変動の構造分析
金子隆一(国立社会保障・人口問題研究所)
 4. わが国における人口高齢化の要因分析
石川 晃(国立社会保障・人口問題研究所)
 5. 期間 TFR 変動における結婚行動および夫婦の出生行動の寄与
岩澤美帆(国立社会保障・人口問題研究所)
 6. 現代日本の少子化要因に関する実証分析
大山昌子(一橋大学)
- <討論者>稲葉 寿(東京大学)
津谷典子(慶應義塾大学)

テーマセッション3 「人口変動と地域社会」

- <組織者・座長>伊藤 薫(岐阜聖徳学園大学)
1. 人口変動と京都市行政計画マネジメント行政計画策定における人口分析の利用
山田勝裕(京都産業大学)
 2. 東京圏の人口変動
吉岡 茂(立正大学)
 3. 東京都における新たなる人口動態分析：都心での人口急増をふまえ
金子英文(東京都庁)
 4. 日本の大都市における再都市化の分析
大城純男(名古屋市役所)

5. 年齢各歳別都道府県別将来推計人口の開発 大場 保 (国立社会保障・人口問題研究所)
 6. 日本の人間開発における地域雇用開発の役割

野上裕生 (日本貿易振興会アジア経済研究所)
 <討論者>坂井貞彦 (愛知淑徳大学)

●自由論題

[第1部会]

1. 国勢調査人口と登録人口の差異について
 2. 同居見法による日本の出生率推計

<座長>井上俊一 (日本大学)

柳 洋二 (総務省統計局)

伊原 一 (総務省統計研修所)

松倉力也 (日本大学人口研究所)

ロバート・D. ラザフォード (East-West Center)

3. 日本の生命表の将来推計の試み：Lee-Carter 法に関連して

南條善治 (東北学院大学)

吉永一彦 (福岡大学)

<座長>岡田 實 (中央大学)

木下太志 (筑波大学)

4. 人口、開発、自然環境：マルサスVSボズラップ
 5. ジュースミルヒ『神の秩序』の今日的意義

内海健寿 (会津大学短大部)

[第2部会]

1. 幕末維新时期における世帯構造の特徴
 2. 徳川東北農村における世帯のライフコース：隠居・死亡・絶家

<座長>鬼頭 宏 (上智大学)

岡田あおい (帝京大学)

津谷典子 (慶應義塾大学)

黒須里美 (麗澤大学)

3. 近世都市の経済危機と人口：京都西陣の事例から

浜野 潔 (関西大学)

<座長>森岡 仁 (駒澤大学)

4. 高齢者の健康度と労働参加

小川直宏 (日本大学人口研究所)

松倉力也 (日本大学人口研究所)

5. 日本の配偶関係別健康余命

小松隆一 (国立社会保障・人口問題研究所)

齋藤安彦 (日本大学人口研究所)

6. 忘れられた人口爆発と人類生存の危機

黒田俊夫 (家族計画国際協力財団)

[第3部会]

1. インドにおける出生力の地域格差：2001年センサス結果から
 2. インドの家族計画前史：1950年代まで
 3. 韓国における人口政策とリプロダクティブライツ

<座長>坪内良博 (甲南女子大学)

西川由比子 (城西大学)

嵯峨座晴夫 (早稲田大学)

山地久美子 (神戸大学)

4. 中国新疆和田地区における人口・離婚問題
 5. 新疆ウイグル自治区における民族別人口移動

<座長>小苺米清弘 (東洋大学)

シャミシヌリ・アブドケリム (東京農工大学)

ショウケット・ファイズラ (東京農工大学)

[第4部会]

1. 最近のロシアにおける人口変動 <座長>若林敬子 (東京農工大学)
2. モンゴル国の人口と就業 トゥルヒーーン・ミハイル (早稲田大学)
3. ソロモン諸島パラダイス村の人口分析 駿河輝和 (大阪府立大学)
中澤 港 (山口県立大学)
大塚柳太郎 (東京大学)
4. アジア諸国の国際人口移動 <座長>渡辺真知子 (明海大学)
5. 人口移動と不平等：タイの1990年代を事例に 早瀬保子 (日本貿易振興会アジア経済研究所)
6. シンガポールにおける人的資源開発政策の変遷 栗田匡相 (一橋大学)
案浦 崇 (松蔭女子大学)

[第5部会]

1. 第二次石油危機下の男女別・年齢別人口移動について：
1980年国勢調査人口移動集計結果を利用して <座長>大林千一 (総務省統計局)
伊藤 薫 (岐阜聖徳学園大学)
2. 1990年代半ばの日本における出生率の規定要因：25歳以上既婚女性の場合
野間口恵 (メリーランド大学)
3. 少子化問題に関する一研究：育児支援策を中心として 安東歩太 (一橋大学)
4. 消費構造からみた子どもコストの推計 <座長>杉野元亮 (九州共立大学)
竹沢純子 (お茶の水女子大学)
5. 内生的成長，子育て費用および経済成長 永瀬伸子 (お茶の水女子大学)
趙彤 (大阪経済大学)

[第6部会]

1. 日本における若年者の親との同居行動 <座長>兼清弘之 (明治大学)
2. 所得水準による離家決定メカニズムの分析 高田しのぶ (お茶の水女子大学)
3. 近年の日本の妊孕力に関する文献的検討 福田節也 (明治大学)
佐藤龍三郎 (国立社会保障・人口問題研究所)
早乙女智子 (ふれあい横浜ホスピタル)
白石紀子 (国立社会保障・人口問題研究所)
4. マクロ経済の動向と結婚・出生行動 <座長>和田光平 (中央大学)
5. 所得の不確かさと結婚行動 加藤久和 (国立社会保障・人口問題研究所)
6. 離婚の要因：家族構造・社会階層・経済成長 吉田千鶴 (関東学院大学)
加藤彰彦 (帝京大学)

[第7部会]

1. 近年の高齢者の世帯変動 <座長>渡邊吉利 (国際医療大学)
2. 男女の余命分析：日本・台湾 長期的余命と死因分析による比較 小山泰代 (国立社会保障・人口問題研究所)
3. 高齢者の健康状態と所得格差 岡部恭子 (北九州市立大学)
小島克久 (国立社会保障・人口問題研究所)
<座長>阿部 隆 (日本女子大学)

4. 宮城県の人口動態

萩原 潤 (宮城大学)

5. 青森県の平均寿命は最短か?

坂井博通 (埼玉県立大学)

[第8部会]

<座長>石南 國 (城西大学)

1. 近年の結婚の動向: 第12回出生動向調査から

金子隆一 (国立社会保障・人口問題研究所)

三田房美 (国立社会保障・人口問題研究所)

2. 夫婦出生の動向: 第12回出生動向調査から

佐々井司 (国立社会保障・人口問題研究所)

3. 子ども数に関する意識: 第12回出生動向調査から

守泉理恵 (国立社会保障・人口問題研究所)

<座長>兼清弘之 (明治大学)

4. 未婚者のライフコース: 第12回出生動向調査から

釜野さおり (国立社会保障・人口問題研究所)

5. 日本における婚姻率低下: 結婚市場構造と配偶者選択選好の役割

ジェームズ・レイモ (ウイスコンシン大学)

岩澤美帆 (国立社会保障・人口問題研究所)

[第9部会]

<座長>大江守之 (慶応義塾大学)

1. 1900年以降の地域別人口動態率と移動率の変動:

「1960年代以前のわが国の地域人口の研究」その4

高橋眞一 (神戸大学)

1. 地域別にみた潜在的他出者と人口移動:

「1960年代以前のわが国の地域人口の研究」その5

中川聡史 (神戸大学)

3. 戦前期日本における死亡率の季節変動にみられる地域差:

「1960年代以前のわが国の地域人口の研究」その6

井上 孝 (青山学院大学)

<座長>高橋重郷 (国立社会保障・人口問題研究所)

4. ミクロシミュレーションモデルによる家族・世帯の将来推計

稲垣誠一 (農業者年金基金)

5. ドイツ・オランダ語圏諸国の低出生率と家族政策

原 俊彦 (北海道東海大学)

(加藤久和記)

日本中東学会第19回大会

日本中東学会(会長:加藤 博・一橋大学教授)の第19回大会(実行委員長:武藤幸治・立命館アジア太平洋大学教授)が2003年5月10日(土)~11日(日)の2日間にわたって別府市の立命館アジア太平洋大学で開かれた。初日の午後には公開講演会、総会が行われ、2日目には午前6分科会、午後5分科会が設けられた。今回の公開講演会「イラク問題を語る」(講師:酒井啓子・アジア経済研究所)は時宜を得たものであったが、人口には直接的な関係がなかった。他方、人口に関する報告としては以下の3つがあった。

阿部り(ロンドン大学大学院):「トルコ南東アナトリアにおける都市移住と女性」